

# 創立50周年記念式典を開催

## ニシハツ（佐賀県唐津市）

デンヨーグループの自家発電装置メーカー「西日本発電機株式会社」（ニシハツ。佐賀県唐津市千々賀140、高橋修社長）は10月11日午後、佐賀県唐津市東唐津の唐津シーサイドホテル西館虹の間で、創立50周年を祝う記念式典・祝賀会を開催した。

高橋修社長は「本日から「新しい50年」が始まり、気持ちを新たに歩む。常に皆様のお声に真摯に耳を傾け、皆様のお力をお借りしながら誠実に努力を積み重ね、いつも皆様から支持され、役割をきちんと果たす存在であり続けたいと強く決意する」とあいさつし、同社と取引先・仕入先との連携関係の強化を訴えた。

同日は式典に先立ち、午前中は本社工場内に、今年9月に竣工した大型製品工場の生産ライン及び新製品などを披露した工場見学会を行った。記念式典には、全国各地の取引先や仕入先、事務局などを合わせて191名が参加した。

西日本発電機は10月11日付で創立50周年を迎えた。午後12：30に開会した記念式典では、壇上で、高橋修社長のあいさつに続き、来賓のあいさつとして、唐津市の坂井俊之市長、内発協の平野長寿専務理事、昭電社の佐々木健一代表取締役の3氏がそれぞれの立場から祝辞を述べた。

コマツディーゼルの中村直生社長の発声で乾杯を行い、祝賀会へと移行した。



記念式典であいさつする高橋修社長

祝賀会では、祝電を事務局が披露したのに続き、高橋修社長が再び登壇し、西日本発電機の第3代社長の葛岡龍夫氏、第6代社長の遠藤豪通氏、第7代社長の豊森尚文氏の3氏に記念品の贈呈を行ったほか、自身を含む西日本発電機の役員全8名の紹介を行った。また、懇談の合間に壇上で、地元有志が唐津くんちのお囃子（はやし）演奏を披露した。

その後、閉会のあいさつとして、デンヨーの代表取締役会長兼CEO（最高経営責任者）の久保山英明会長が登壇し、出席者に謝辞を述べた。引き続き、西日本発電機の先の株主で、現在は仕入先である阪和興業の浅井照夫常勤監査役の音頭で出席者全員が万歳三唱を行った。最後に、会場の外で、西日本発電機とデンヨーの役員全員が整列して出席者を見送り、午後3：30に祝宴の幕を閉じた。



見学者を出迎える高橋社長（右3人目）ほか役職員



取引先・仕入先が参加した工場見学会

# 「新しい50年」 気持ちを新たに共に歩む

西日本発電機株式会社  
代表取締役社長

高橋 修 氏



弊社は昭和38年（1963年）に設立され、事業の拡大とともに工場の増築を重ね、昭和59年（1984年）までは順調に事業を伸ばして参りました。しかし、その頃には産油国向けの製品輸出比率が80%を占める輸出依存体質に陥っておりました。昭和60年（1985年）に入ると、オイルショックにより産油国の購買力が低下したことに加え、同年9月、プラザ合意（行き過ぎたドル高の是正を目的としてG5（日・米・英・仏・旧西独の5カ国蔵相会議）がドル安を推進することを決定した）より急激に円高が進行しました。それに伴い、弊社の業績が急降下し、昭和61年（1986年）8月、阪和興業様の傘下で会社更生手続きを執行することとなりました。

折りからの建設不況の中、多くの債権者の皆様に多額の債権を免除いただくとともに、希望退職者の募集や輸出依存からの脱却など、更生にいたる道のりは筆舌に尽くしがたいものであったと推察いたしております。当時のご関係の皆さまに対し、改めまして深く敬意を表し、お礼を申し上げる次第でございます。

おかげさまで種々の施策が功を奏し、3年後の平成元年（1989年）には利益を計上できるまで経営改善でき、その後の会社運営に注力できるようになりました。当時は建築事業が旺盛な中、デパートや老人施設などで火災が相次ぎ、消防用の電源として非常用発電装置の役割が強く認識された時代でもありました。そうした事情もあり、弊社は主力製品を急速に非常用発電装置へとシフトさせ、着実に歩みを進めて参りました。

このように業績は順調に推移しておりましたが、阪和興業様の社内におかれましては、この先、商社である阪和興業様がメーカーである弊社を経営し続けていくには限界があるというお考えがありました。

一方、可搬型発電機が主力のデンヨーにおいては、定置用の非常用発電装置事業の強化が課題であるとの認識があり平成19年（2007年）6月、阪和興業様よりデンヨーに全株式が譲渡されました。

デンヨーの傘下に入り、平成25年で7年目になりま

すが、おかげさまで仕事に恵まれ、ここ数年の間に業容を拡大することができました。若い社員も多数雇用でき、平均年齢35歳という若い企業になりました。デンヨーとの連携強化のもとで、特長ある製品の開発にも取り組めるようになった気が致します。また、徐々に生産設備を更新するとともに、本日ご視察いただいた新たな大型製品工場も増設することができました。

そして私どもには永年にわたり培ってきた幅広い技術的ノウハウと厳しい経営時代に鍛えられた「ニシハツ魂」というものが備わっていると考えております。

本日は早朝より、短い時間ではございますが弊社工場をご視察いただきました。古い工場で、それもまったくの駆け足の視察で失礼かと思いましたが、ご説明しました紆余曲折もあり、私どもには思い入れのある仕事場でございます。また工場と併せて、新開発した製品をご提案する私どもの姿を、皆様に観ていただきたいと思った次第です。

唐津は風光明媚な土地柄です。しかしながら、交通の便が良くはありません。折角お越しいただいた皆様に私どもの仕事場ものぞいていただき、記憶の隅にとどめておいていただきたい。そういう思いもございました。

本日から「新しい50年」が始まりました。気持ちを新たに歩んで参ります。私どもは常に皆様のお声に真摯に耳を傾け、皆様のお力もお借りしながら誠実に努力を積み重ね、いつも皆様から支持され、役割をきちんと果たす存在であり続けたいと強く決意しております。

また、これからの時代は今まで以上に急激に変化し、事業環境も様変わりしていくと考えます。私どもはデンヨーグループの一員として常に研鑽を重ね、スピード感を持って自己変革をして参る所存でございます。どうか今後とも旧に倍する温かなご指導・ご鞭撻、そしてご愛顧・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。私のご挨拶に代えさせていただきます。

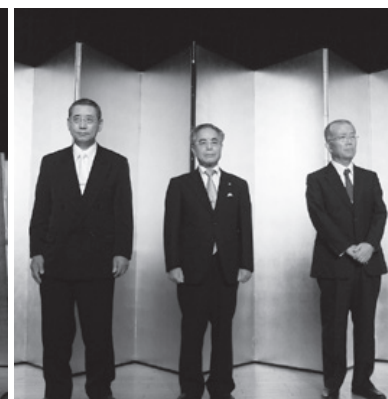
本日は誠にありがとうございました。



記念式典の会場受付



ニシハツ役員の紹介



左から葛岡氏、遠藤氏、豊森氏

## 平野長寿・内発協専務理事の祝辞

本年9月に新設された大型製品工場と新製品群を拝見して3つの感銘を受けました。1つ目はスピード感。内製率の向上による短納期の実現についてです。顧客ニーズへの素早い対応の実践で培った、社員一丸となったスピード感あふれる活力を感じました。

2つ目は品質へのこだわり。他社製品よりも常に半歩抜きん出た高品質の製品を、ユーザーに届ける使命という技術開発者の情熱を感じました。高橋社長様の物作りにかかる想いを汲んだ社員一人ひとりの向上心と日々の研鑽が「ニシハツ」ブランド製品に対する顧客の信頼獲得に繋がっていると確信しました。

3つ目は製造・販売両体制の一体感。国内外で発電装置事業を展開し数多くのノウハウをお持ちのデンヨー様との協業体制についてです。デンヨーグループとの連携強化がニシハツ様の魅力ある製品ラインアップの拡充や自家発市場でのシェア拡大に寄与したと

言えましょう。工場で実演下さった並列運転装置、三相・単相切替型非常用発電装置、最新の排出ガス規制適合の環境配慮型発電装置、今後の需要増加が予測されている容量1,000kVA以上の大形パッケージ製品などは協業体制の賜物です。

自家発市場では現在、災害発生時に企業が事業を継続できるようなBCP対応電源設備として非常用発電装置が求められています。ニシハツ様の新製品群は、そうした顧客の要望を満たす魅力溢れる製品であり、貴社の事業拡大に寄与する主力製品となるでしょう。

ニシハツ様の強味である「スピード感」と「品質」にさらに磨きをかけられ、なお一層躍進されることを祈念して私の祝辞とさせていただきます。



## 坂井俊之・唐津市長の祝辞

本日付で創立50周年を迎えられた西日本発電機様におかれましては、どうか今後ともわれらが唐津市の地域経済の活性化に民間企業の立場から寄与して頂くのはもとより、日本経済の浮揚にも随時協力して頂きますよう心よりお願い申し上げます。

高橋社長様をはじめ、社員の皆様、グループ企業社員の皆様のますますのご繁栄、並びに、お集まりの皆様方のご健勝・ご多幸を重ねて祈念申し上げて、措辞ではございますが、私からの祝辞とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。



## 佐々木健一・昭電社代表取締役の祝辞

弊社は電気設備工事を主な事業とする福岡市の九電工の子会社です。昭和58年に、西日本発電機様とのお取引を開始し、各種の非常用発電機を九電工様に納入しております。

本社工場では品質・コスト・納期に優れた信頼性の高い新製品を見学させて頂

き、特に容量1,000kVA以上の大形発電装置に感激しました。今後、大形発電装置の営業に注力していく所存です。また、西日本発電機様の従業員平均年齢が35歳と伺って驚きました。若い活力にあふれた優良企業であると思います。本日は創立50周年おめでとうございます。

